



盤腸無底抄

あはせや

特別
~ 12
1077
51





利
1077
5051



東屋

私花鳥の二歳の子

九五歳

權大納言右大将

中将君冊文姫君事

松文姫君

中納言君の御母

左近中将孫常陸守之女姫君事
中人以此事告常陸守常陸領地
討之左近大臣受あせらる乃大納言式
郷のまやと此いや孫人さる
ありし給事んとさる乃左近

年三十一
十四

そのひりり音に大巨りり 按察大細云
の紅梅右大巨也 常陸守の妻の中
人として右大巨りり 終小事と
あつてきりりりりり 海りりり
按察大細云とりのり

危之々將嫁娶事 常陸女十五云

中将君と又お二条院中之事

故交姫君顔の中間事

姫君移居二条院西庇小路

中将君お二条院付見交洲の極事

常陸今尊危之々將系二条院事

其の交中文事

中将君と二条院君御物儀事

大将交系二条院給中将君付見事

大将と中君物儀

謂彼形代在此殿之由事

大将欲得形代事

大将異香引 藥王事

中君傳大將心越中中將君給

常陰守妻迎車之二乘院廊言

文見給

中君陰湯給

吾之文見射非君押對面

右之君少將君思憂

中宮脚腫痛之中人告中事

吾之文系中文給

中君嘔非君物給行

乳母行常陰友給之脚振拜

常陰友乘二乘院伴非君歸京家

事 三乘也

常陰友又海家

常陰友詠萩并送智女將事 如女并

文非君在三乘家詠給

母上送文事

秋末大將殿中守治見新送漸言

送并尼問文非君在事給

大将折草花海京在見女二下交事

大将卷車お守治速并尼了

并尼行之東家事

九月十三日大将到之糸屋速并尼了

引入車

建姫表の

大将妾伴姫表行守治事

尼表侍従君同車の

大将妾を洲又お女二交去為佛飾二
之目速為事

東屋 花似奇并 刻為卷石秘

^何片一と心かじくくやちけと東屋の
おまの行る毎くきく乳 蓋れ奇

東屋 アツマ 四阿 アツマ 雨下 マトヨメリ

四阿 阿句會阿終行切孝工記本皇屋表

四柱皇屋 複の

私案 アツマの皇屋トアリアツマの花屋心

須弥上秘集の

私両方ノ底ノ角スミキハ本掛棟木ノ下ヨリ下

シタリツアツてマト云常ノ屋ノ如ク破風ノ
処ナキ物(又ハ吾妻屋)

菫九二歳秋

菫女五歳ノ八月より九月まで此事之并筆

催馬サイバ来ラ少シも来キをトらス名ナあり

私筆前

清清~~~~~

~~~~~ 菫波根 何時波ノ字ヨリヨリ

何~~~~~

~~~~~

菫菫波波山山の常常陸陸園園日日ありありありありありあり

君君の常常陸陸前前司司乃乃ままししよよありありありあり

これこれの菫菫女女傳傳れれ名名~~~~~

乃乃ととああららすすととああららすす

秘 常常陸陸園園のの名名ありありれれららししりり

浮舟の君の書 陰守れまゝにみられた
行くともよきこといふなりさひいふらう
ゆりまわるとよめおれぬわかれゆく
君は人びとよき事願のじよあふこと
尋ねうつくしきおれん事と人いふ
らしことうわたり行くおれん事
夢乃の上臈——と輝と志
浮舟の君又常陰守れまゝにみられた
お。夢乃の上臈——と輝と志

くみれよきこといふなりさひいふらう
らしことうわたり行くおれん事
夢乃の上臈——と輝と志
君は人びとよき事願のじよあふこと
尋ねうつくしきおれん事と人いふ
らしことうわたり行くおれん事
お。夢乃の上臈——と輝と志
くみれよきこといふなりさひいふらう
らしことうわたり行くおれん事
夢乃の上臈——と輝と志
君は人びとよき事願のじよあふこと
尋ねうつくしきおれん事と人いふ
らしことうわたり行くおれん事
お。夢乃の上臈——と輝と志

井の尼より信母君れ母(善れ乃

始りしと由といひてしるす

甲あやうに由をさへりて事ともあは

らるは 秘母乃るなり

あはれあしきしうらなひ

是も信母の母れ也

うこの子ともうらなひのり

守子共 或不足い幸陸か子共

太守者為親王置之親王任時不知

吏勢仍み介為守乃令勅吏替

けお今の命と守とりふれ又南國守

凡人任時止太字守に任する例も

あり

常陸前司此子為人或郭^荒亞源女

細言妻續伎守妻 笠前殿 為人右

迎將監童女将妻 笠上中将君 和中為君則信母 君の母の全

假時

常陸守の必親と(それと守乃る

何哀言之
幸陸上野木
諸王外不任
諸王に官達
ゆ中

時々の使務下と云ふ事あり
アトシ今と云ふ事あり
と云ふ事あり

^秘前服也 箋

この事ありと云ふ事あり

^秘浮舟の母 箋

私に非君と云ふ事あり此巻に女將の

妻の事あり

と云ふ事あり

次々此の事あり

と云ふ事あり

^秘浮舟の母と云ふ事あり

と云ふ事あり

浮舟の母と云ふ事あり

と云ふ事あり

浮舟の母と云ふ事あり

と云ふ事あり

^秘浮舟の母と云ふ事あり

なと〜

とら〜

常^義法^義の〜

あ〜

あ〜

同^り事

〜

前^り股^り子^り

〜

海^りの^りあ^りる^りあ^りる^り

母^秘の^り我^り股^り子^り

〜

あ^りよ^りと^り〜

又^若〜

と^り〜

私^りは^り〜

〜

〜

ふふふ——葉と鳥居——
てふふ——ささのささのささのさ
る——信のちささのささのささ
くれてあふふ——かふふ——
とらふふふふふふふ
あふふふ——ささのささのささ
ふふふふ

^葉常陸守の信好とこれ子孫

ふふふふふふふふふふ

^葉常陸守の信好とこれ子孫

ふふふふふふふふ

^葉富のあふふふ

ふふふふふふふふ

^葉ふふふふふふふふ

好事者暮以鏡帛 孝經

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

ゆいゆいのひら

庚申夜
腹中有三戸

らーあまーふーこあーせわあーら

爲人大苦
庚申夜止若

腰折 耳合 物依 庚申

天帝記人呂
過徒生籍

お依合 夕合 庚申

庚申之夜不
寝則不得

庚申 耳

上天

遺集うらの知書 但松

許軍詩

このけされら

常夜命れわ

わつららん

浮舟のま

け女たわ

尾近女持とこ

大得うり

大得先程不見

あわやうふ

夕納り

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ) ^{あはれ}

あはれなる人 (あはれ)

あはれなる人 (あはれ)

ゆるゆるいおのこさる

^おのこ

あまのこあまのこあまのこ

幸いなるおのこあまのこ

あまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ

^あのこ 螺鈿

あまのこあまのこあまのこ

^あのこ

あまのこあまのこあまのこ

^あのこ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ

とていふことあり

とていふことあり

とていふことあり

内教坊の人の井乃あつていふに
ありあつて来り年非うやのあ

とていふことあり

とていふことあり

今乃せしとていふことあり

内教とあつていふことあり

内教坊別函大中納言中法其道之

とていふことあり

とていふことあり

とていふことあり

とていふことあり

とていふことあり

万秋あつて内教坊況とあつていふことあり

とていふことあり

事しん若行況


~~~~~

あつちのりきりあつちのりきり

浮舟の舟れん葉

くのかのりきりあつちのりきり

舟のりきり真実りきりあつち

よつちのりきりあつちのりきり

浮舟のりきりあつちのりきり

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

秘  
舟のりきり葉

~~~~~

あつちのりきりあつちのりきり

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~



あーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい  
秘あーいーい

あーいーいあーいーいあーいーいあーいーい  
あーいーい

秘あーいーいあーいーいあーいーい

私父常彦の子よはなれあーいーいあーいーい  
あーいーいあーいーい

この君はあーいーいあーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい

秘あーいーいあーいーいあーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい

義常彦命あーいーいあーいーいあーいーい  
あーいーいあーいーいあーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい  
あーいーい

あーいーいあーいーいあーいーい

秘あーいーいあーいーいあーいーい

あーいーいあーいーいあーいーいあーいーい



次とらふとよ

<sup>秘</sup> 其の約 信女は事よ女は事よ

よよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよ

媒とあり

よよよよよよよよ

<sup>秘</sup> 申あちらのよ

くうくうくうくうくうくう <sup>秘</sup> 申ならぬ

申よわー

ひあのかー

くいのこ

思ひ

信女は事よ

あまの

よよよよよよよよ

よよよよよよよよよよ

<sup>秘</sup> 信女は事よ

あまの



も又願ひの聲く〜あ〜んま〜そ  
あゆもぬ〜ぬま〜みれ〜あ〜け  
〜い〜り〜て〜か〜の〜た〜り〜と〜あ〜と  
あ〜り〜る〜の〜父〜母〜く〜い〜家〜常〜陰  
〜じ〜あ〜い〜と〜さ〜い〜あ〜つ〜あ〜い〜あ〜い〜  
わ〜り〜い〜ら〜り〜い〜い〜あ〜い〜い〜  
同〜い〜と〜や〜浮〜舟〜い〜ま〜い〜い〜い〜  
い〜あ〜い〜い〜あ〜い〜い〜い〜い〜

源女納言續後守とれうけらりり

き〜き〜

秘 人前服のし〜う〜ん〜 系場

あ〜

私け〜ん〜も〜あ〜い〜い〜い〜い〜い〜  
か〜約〜い〜常〜陰〜分〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

この〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
秘 媒 追従

中〜ら〜れ〜神〜い〜候〜い〜



らいつらあ〜う〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
ひまれ

<sup>箋</sup>あや〜ひ〜まれ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
こゝろあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

海〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

<sup>秘</sup>媒の約

ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

<sup>秘</sup>年〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

中〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

<sup>并</sup>あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

<sup>箋</sup>あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
<sup>秘</sup>あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ



あゝんねー乃くわーも物〜  
守主らや何れとらふを御の  
つ〜廻〜大あ〜ふ〜の〜  
の花〜  
私をね〜し〜も〜の〜  
も〜  
よあわて〜  
お葉〜  
よ〜ら〜

花 花 伴 惣 地 治 万 一 あり

整 万 保 名 万 一

あ〜  
信 世 の 業 万 一 あり 帝 の 心  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜



この人さうさうのれあし乃御うた  
あつたしり。

おの御方の浮舟の君乃事  
妹かたあくの妹西の御あし  
あつたしり

東屋表

おのれあし乃御あし  
あつたしり乃御あし

あつたしり乃御あし乃御あし

世朱之丸紙付御書

あつたしり乃御あし乃御あし

あつたしり乃御あし乃御あし

あつたしり乃御あし乃御あし

あつたしり乃御あし乃御あし



多〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun〜Sun

媒の〜  
〜

こ〜〜〜〜〜  
〜

と媒の事〜  
〜

〜

〜  
〜

年〜  
〜

尾〜  
〜

<sup>秘</sup>媒の約

あ〜  
〜

<sup>秘</sup>物〜  
〜

物〜  
〜

ら〜  
〜

<sup>秘</sup>中〜  
〜

私〜  
〜

ら〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜



のくはしきしあひのあはれ

は月くうられあひま 秘媒の記

也のあひまは唐のあひ

私信毎の事え

ふれあひのあひまのあひ

あひのあひまのあひま

信丹君常澄おきまのあひま

とと常澄うまひまのあひま

してあひまのあひまのあひま

如捧年 常上珠とらふ御

はとらふあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

とらひてあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

常澄あひまのあひま

あひまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひま



あつちのうらみの教ふしてあは  
あしおしあはしんはあはしあは  
あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはし



海之系船

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


女物のしほき〜〜しほき〜〜しほき
 〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 今も〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 かな〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 しほき〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 しほき〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき
 ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

ね〜〜しほき〜〜しほき〜〜しほき

常陸守を放た得の家礼又其御流
しりあしおくれ

いふらふらあしうらうら
陰奥常陸守の御流

これめあひぬくし
母の心らしき

あしき
妹の心

何とありしうらあしき

秘 媒の初

あしきとさうれぬ
守とらぬ

あしきとらぬ
あしきとらぬ

あしきとらぬ
あしきとらぬ

あしきとらぬ
あしきとらぬ

花 家れぬしは見集せしりし事

そのりしりし経廻しる事

秘 高きし心し 其高きし心し

心し高きし心し

かのりし心し

と 葉昇

く 心し心し

秘 これより心し

わ 心し心し

昇 一本心し心し

心し心し

私心し心し

心し心し

心し心し

秘 心し心し

心し心し

心し心し

心し心し


~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~

元 陋れ多

~~~~~の~~~~~

~~~~~

^昇見 秘 妙 なるの~~~~~

~~~~~の~~~~~

<sup>秘</sup>~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~

^養~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~

<sup>養</sup>尋常の~~~~~

~~~~~


らふとく 直人 徳をまへ

らふとく 直人 徳をまへ 養明年 皇恩にむかふ

二つひのさき ころころとひひ

今日 日記 類聚 たり

けさのさき たり

と夜の花 たり 勅定 たり

こころの 意旨 直言 たり

のり 媒 命 たり 事 たり あり たり 款

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

私 位 あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

此^并訂のよよのありしは作あつしと媒
の女れとりうて常陸にあつし
わそんのとらめ羽の事

とれしあれし
勅定^并のしし(其事)媒のしむあり
くし石丁鏡うらふし

わうしあのみじとあしむしはうし
あしむしとみれしはしし新あし
しむしはうしはうしはうし

あのとれしとれし
女将^并ととりし

とれしとれしとれしとれしとれし
あしむしとれしとれしとれし
常陸^案介の爲しとれしとれし

とれしとれしとれしとれし
雛夷^り 常陸の事
おろしとれし 枕の事

このはれはさ〜のまのな〜のま〜のま〜
守の^秘廻（ま）〜のま〜のま〜
は狗（いぬ）〜のま〜
は〜のま〜

あ〜のま〜
ま〜のま〜
〜のま〜

〜のま〜
〜のま〜

〜のま〜
〜のま〜

^秘地（ぢ）板（いた）のま〜
〜のま〜
〜のま〜

〜のま〜
我女（わがむすめ）とま〜

本居のくわむじのあし

^義上はうらうらと居うてあふんとみえ

の作らうらうらと申あらのあし

しゆ

私共は本居のあしを贖うのふと

らうらうら

あしにのみうらうらとあしをうたれ

當時の帝とあしにうらうらとあしをうたれ

らうらうら

やふあしにのみあしにうらうらとあしをうたれ

らうらうらとあしをうたれ

らうらうらとあしをうたれ

^秘右ふれあしとあしをうたれ

らうらうらとあしをうたれ

^昇あしにのみあしにうらうらとあしをうたれ

らうらうらとあしをうたれ

らうらうらとあしをうたれ

らうら

私昇の養育の女将と云ふの事
と上れ若くはふくはしき事
帝位奪つことありしと大に
あつし贈り物も事とありし
やそれと云ふくぬきかた
あつしと云ふくぬきかた
とぬき事と云ふくぬき
ふと云ふくぬき事と云ふ
悦ひしる約

いふことありしと云ふ

^秘媒のふく

いふことありしと云ふ

^秘浮舟のふく

いふことありしと云ふ

いふことありしと云ふ

いふことありしと云ふ

いふことありしと云ふ

いふことありしと云ふ

氏うぬ

めしーいひんしんしんしん

媒のさしあはせり

君とーいひんしんしんしん

秘
少ゆ

大臣ふりしーいひんしんしん

贈^り方 土記権大細云去年一献贈

号申一官さ

そーいひんしんしんしん

んしーいひんしん

贈^秘の字法とあり

そーいひんしんしんしん

贈^義銅とも云但刑罰の時法合はりて

出れと贈^義銅とも云重宝とて

て官のさしあはせり

私但吳朝の贈^義銅とて官とも

と崔列とらふ若錢貨とあして

官のさしあはせり

奥さあ~~~~~
もあり

さ~~~~~
あ~~~~~

^秘あの名~~~~~ 松女おの名~~~~~

私浮舟~~~~~
あ~~~~~

~~~~~  
~~~~~

^昇常陸のむ~~~~~

あれ~~~~~

^秘妹の宛~~~~~

~~~~~

松のあ~~~~~

~~~~~

始君と~~~~~

~~~~~

~~~~~


井
あゝあの中は花のうら

葉
あの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

と

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

葉
あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

あゝあの中は花のうら

とうきり利欲のうきりたる御

日くくくくくくくく

の^亮の事の後^亮の事

の事^亮の事

の事^亮の事

の^秘の事

の事

の事^秘の事

の事

の^秘の事

の事

か

の事

の^秘の事

の事

の^秘の事

の事

の事

おはようございます

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

新^何後系紀云十一君氣裝人十
二君假相人^{六六ウ}奪
^秘あとい我しすあといさ
屋りの装

免てさあらんを乃御しす免
あてさういんはじさあ
^昇常澄う約しふあ君乃事と
あさうりてらあ
^秘あてさあらん御しすあトの信丹

とあさしんてらあ
^美あこのはじすあとい八文の御
女さうかし款さう
よせさ場のみ君さうあ

^何用或要
^免よの月やあまのたうあ
よのいねん
あ
せんよあ

寺の自慢は句

あーらーあつらひらさかられと
^美おれあひらあひら

あつらひらあひら
あつらひらあひら
あつらひら

^美あつらひらあひら

あつらひらあひら
あつらひらあひら

あつらひらあひら

あつらひらあひら

あつらひらあひら

^秘あつらひらあひら

あつらひらあひら

^秘あつらひらあひら

あつらひらあひら

あつらひらあひら

^美あつらひらあひら

あつらひらあひら

松 浮舟のあはれ

くよらちらり流り

養 浮船のうらみ

よの別にあの

松 あり

この君の

松 浮舟のい

あはれ

あはれ

あはれ

松 浮舟の妹

ら

松

此は

松

松

松

あはれ

あはてしこの御あはれ事
みれし口をかし
あはてし御あはれ事
あれし我の口をかし
あはれし御あはれ事
あはてしこの御あはれ事
あはてしこの御あはれ事

御所へおはせし事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事

あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事

あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事
あはれし御あはれ事

みれど

^昇大将と思ひおこしつる也

^秘わねとりつり

^秘先のとの約しうきうのあかうと地

すくまゝなるとも彼うとそし

心そかんきしと

大将あのかさ海わこられ

かりの事と先のそれり事

わなあそうしやん乃らふとさげん

^秘母の約箋

^秘右のふとのあせらり乃大細言式部

御せま

^秘ク書也 探家大細云を紅柄の

大目し 式部を蜻蛉しうし

ねつり書れとらし 箋昇

^昇書とじしと思ひし

見らるのあしつりしむしあえ行

つる書と

国史云正三位源朝臣保殿后ノ母也潔姫

者境娥太上天皇之女也母

當麻氏天皇選解未得其

人太政大臣正一位藤原臣

忠仁之事也弱冠之時天皇悦

其風操超倫殊勅嫁清和太

后其長女也潔姫性能琵琶

頗可賞翫

乃御之々々御之々々

わく瑛て 秘 昔之々々

篋 蓋れ時々のすゝまゝ御

見給ひもせます御

文のうれあゝ御

秘 中書

篋 六君の事御

わが力もそのまゝ御

篋 信舟の母の八文れ御事常陰

ととさひく御

このころの事

常陸の事

あつたよあつたよ

今度女将の事集の事

名あつた事

名あつた事

名あつた事

名あつた事

と

人あつた事

信あつた事

信あつた事

信あつた事

あつた事

あつた事

あつた事

あつた事

あつた事

あつらひ

常^并下^并今^并三^并り^并あ^并い^并浮^并舟^并一^并一^并

と^并ん^并と^并あ^并り^并あ^并い^并

物^并也^并十^并七^并五^并三^并二^并一^并

あ^并ら^并る^并あ^并ら^并る^并あ^并ら^并る^并

さ^私ら^私も^私あ^私ら^私る^私あ^私ら^私る^私

あ^私ら^私る^私あ^私ら^私る^私あ^私ら^私る^私

ら^私の^私屏^私風^私と^私あ^私ら^私る^私

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

ら^集の^集あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

あ^集ら^集る^集あ^集ら^集る^集

此の如くありてよむ所なり

^秘 けりしつゝしるべし事

^秘 又浮舟と云ふ事ありて然し 望秘

^并 末の記し十五六のりしり

常陸の女乃事しや 女将し

あしせんとしてん 又云 浮舟と

んあめり 松浮舟と云ふ事

け一段の浮舟の事しとありし

舟ししんあめりし

あひららよむ向ありし決し

ありし女乃事しとありし

とありし 舟の舟 舟の舟

て可なり 舟の舟 舟の舟

しし舟 舟の舟 舟の舟

建しし 舟の舟 舟の舟

とありし

舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟の舟

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

いづれ

わかれの香のたけなす

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

世のこころをわすれぬ

松の葉の香のたけなす

浮舟の母秘（乳母）

まればのうこれゆり

中表秘（兼 昔 郷 文のお方）

浮舟とあつけし事とみ

よは

そのく物して

井 常陸お方の中表の方秘（れ文の約）

あう秘（前おのせんと）

方あう秘（）

あらとりのうけしあれとあを

母あしこのんらりしあけし浮舟

ようあしあしあしあしあしあし

あしあしあし

あいのしあしあしあしあしあし

中表秘のし事しあしあしあし

らあれさうしあしあしあしあし

中表秘のん

八文のし事しあしあしあしあし

えくあーかみ海とて申さかたあつた
これも又八文の御箱とてなぬ
ちふ中君のな
あがあひの備え申すあつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

大楠うりこいよ

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

可のこ海新居あり

いさあしとあうりて

^秘母の心（筆）

水あしこの海ありかたは

^秘いさあし（筆）

^昇いさあしの心とらふ

そのさうりていさあしとらふ

心らうり

^筆女将嫁あり時守の心とらふ

いさあしとらふ結海あり

いさあし

いさあしとらふいさあしとらふ

^元東海 見善相之（意見）

^{故原君}いさあしとらふいさあしとらふ

いさあしとらふ又いさあしとらふ

いさあしとらふいさあしとらふ

いさあしとらふいさあしとらふ

君の心とらふいさあしとらふ

あゝ集りしよしとて親類のよしとて
しんじ

らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

^秘白文の書

^昇信舟の書

らゝゝゝゝ

私信舟の書

常陸の書

又白文の書

多しとて

色

うゝゝゝゝ

^美はな

^秘常陸の妻

らゝゝゝ

^私常陸妻

事始

あゝゝゝゝ

うゝあは

^秘常陸守の子うゝ先服の六位は

藤人成子と通ふ人 ^昇

^養常陸先服の子少将は中子也

いよあまの流けりていよ

^養自交れ流し海

わは流わいよあまの

^秘中表の事 ^昇養

よそにおいよあまの流し

まいこあまの流しあまの流し

^秘前まの流し ^秘前まの流し

あまの流し

^昇常陸事 ^秘常陸事

いよあまの流し ^秘常陸事

いよあまの流し

あまの流し

^秘常陸事 ^秘常陸事

いよあまの流し

かゝるいし^集のきし〜 せしむるまゝに
もとのまゝにうらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
る〜とこゝちのひ〜し〜し〜し
のり年〜し〜し〜し〜し〜し
うのし〜し〜し〜し〜し〜し〜し
らゝゝゝ

わり君ら〜し〜し〜し

秘 白交し

白交のし〜し〜し〜し〜し^集

女君〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

中君^集

こ交れさ〜し〜し〜し〜し

へ交のし〜し〜し〜し〜し〜し〜し

あ〜し〜し〜し

く〜し〜し〜し〜し〜し

あ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

わ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

常^集陰〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

よ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

の頃一思見物とわや二思一
と云ふ一思見物の事以来と云ふ
よりの思見物の事以来と云ふ
はと云ふ一思見物の事

よき一思見物の事

小山抄之外衛依亦任意不帯
之玉。近衛次為常劔上殿之
婿仍常侍之時副於常物持上
自余不能持上蜻蛉日就馬頭

をよき一思見物の事
まきの事一思見物の事
と云ふ一思見物の事
武官一思見物の事

中君一思見物の事
中君一思見物の事
中君一思見物の事
中君一思見物の事

女房一思見物の事
女房一思見物の事
女房一思見物の事
女房一思見物の事

浮舟君の事

かきこみおれらるるをきこむ

くわんくわんくわんくわんくわん

くわんくわんくわんくわんくわん

いよこ成長せざる事

くわんくわんくわんくわん

常一法守為りて一々の君れき

くわんくわんくわんくわん

くわんくわんくわんくわんくわん

つげても

母おれらるるをきこむ

わんくわんくわんくわんくわん

おれらるるをきこむ

くわんくわんくわんくわん

おれらるるをきこむ

くわんくわんくわんくわん

おれらるるをきこむ

くわんくわんくわんくわん

あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

女君の御しつゝ

^秘あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

^秘あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

あゝあわさるゝて

^養あゝあわさるゝて

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

あつた

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

いふやうにうらなひ

御(ご)心(こころ)

大(お)君(きみ)の^{美(み)}事(こと)は

女(に)交(まじ)りて

行(な)は

私(わが)事(こと)は

いふ

中(な)君(きみ)の

事(こと)は

と

い

ふ

見(み)る

事(こと)は

い

ふ

物(もの)

は

い


~~~~~

<sup>秘</sup>の巻に書す

故交の御後の申す事

<sup>義</sup>故交の御後始末をいふ事

ありし事を書す

~~~~~

~~~~~

<sup>秘</sup>母小方の記

<sup>義</sup>信母と大君の事を書す

~~~~~

~~~~~

<sup>何</sup>業の事を書す

<sup>秘</sup>昔の事を書す

<sup>秘</sup>~~~~~

<sup>井</sup>~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


是の世にありては
もあはれむとて
世

此君とてさうしめ

後^葉舟の事

人の世にまじりては
おのりあまのり

かの^葉の浮舟と遠愛

事とてはくもさう

あつてはしる事

あつ

尾の舟にありては
す

舟の事

舟の事

舟

舟の事

舟

思ふに流るる心もまことにあつた心とていつの物らも
りよ

^秘 世のついでにあらしむる心とてわらひ
よ

まはるる心とてあつた心とていつの物らも
りよ

^秘 中表初(半) 美は舟のま

くはあつた心とてあつた心とていつの物らも
りよ

^秘 それの心とてあつた心とていつの物らも
りよ

あつた心とてあつた心とていつの物らも
りよ

^秘 世のついでにあらしむる心とてわらひ
よ

あつた心とてあつた心とていつの物らも
りよ

あつた心とてあつた心とていつの物らも
りよ


~~~~~  
世よりなり

今案常法あり 信を信徳と

り所ありされし

~~~~~

徳を奥列せされし

~~~~~  
秘

常法周りありし

の事されし

奥列の守り

の事とあり

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
秘

此云案の所

のあり

~~~~~

~~~~~


因葉く名とけり〜あふさささ
らひ出さるこ

あ〜こ〜ゆ〜いゆ〜い〜

小葉方りりり〜い〜あ〜あ〜

あ〜あ

〜ゆり〜ゆり〜ゆり〜

交も頰の妻〜い〜い〜あ〜あ

此葉と〜い〜い〜い〜

浮葉舟の舟のあ〜い〜あ〜

母〜い〜あ〜あ〜い〜い〜

お好〜あ〜あ〜い〜い〜

この君〜い〜い〜い〜い〜

信和松也

信葉舟〜い〜あ〜あ〜の〜い〜い〜

頰の妻〜い〜い〜い〜い〜

それと中〜君〜い〜い〜い〜い〜

と〜い〜い〜い〜

幸葉に〜い〜い〜い〜い〜

葉 (葉) 前 (前) 入 (入) 出 (出) 出 (出) 出 (出)

大 (大) 狗 (狗) 友 (友) 者 (者) 者 (者) 者 (者)

葉 (葉) 此 (此) 前 (前) 入 (入) 出 (出) 出 (出) 出 (出)

叶 (叶) 中 (中) 入 (入) 出 (出) 出 (出) 出 (出)

葉 (葉) 浮 (浮) 舟 (舟) の (の) 舟 (舟) 出 (出)

え (え) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

葉 (葉) 自 (自) 葉 (葉) 此 (此) 勝 (勝) 方 (方) 出 (出) 出 (出)

と (と) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

秘 (秘) 自 (自) 交 (交) 出 (出) 入 (入) 出 (出) 出 (出)

浮 (浮) 舟 (舟) の (の) 又 (又) 船 (船)

叶 (叶) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

叶 (叶)

秘 (秘) 大 (大) 狗 (狗) 友 (友) 者 (者) 者 (者) 者 (者)

叶 (叶) 叶 (叶) 叶 (叶) 叶 (叶)

葉 (葉) 車 (車) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

葉 (葉) 車 (車) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

葉 (葉) 車 (車) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー) ー (ー)

并 実るはく

見えぬはく

物美くみれぬはく

くみれぬはく

賢美の髪

くみれぬはく

美美くみれぬはく

くみれぬはく

くみれぬはく

白髪秘くみれぬはく

くみれぬはく

美秘れ髪

くみれぬはく

并 髪美くみれぬはく

くみれぬはく

くみれぬはく

くみれぬはく

くみれぬはく

いづれかあはれし

あはれしとて世と名とて海と

いづれか

中表の心

いづれかあはれしとて世と名とて海と

いづれかあはれし

あはれしとて世と名とて海と

いづれかあはれし

あはれしとて世と名とて海と

あはれしとて世と名とて海と

あはれしとて世と名とて海と

あはれし

あはれしとて世と名とて海と

あはれしとて世と名とて海と

あはれしとて世と名とて海と

あはれし

あはれしとて世と名とて海と

あはれしとて世と名とて海と

わが子御名と居しあふまゝのまゝと
意珠いしゆ——とん——何
せ——みそま非——けそ
あたまし

沙枝さへ——人のあつとあつと
や枝——あつとあつと
あせはあつとあつと
あつとあつと
あつとあつと

引ひ枝え意いせ——とん——
何なに——せ——みそまのま
意いせ——のま

あの人——のあつと
ほほのまのま——とん——
あつとあつと

あつとあつと
あつとあつと
あつとあつと
あつとあつと

るくわいそ

花 薫れし雲のふらふら

——と中君の佛とて

とのねん事や心とりた乃

まてはわらわ

私花鳥——とそそけぬん

てのふらふら

前葉はあし事

ささく心ゆき——はあ

山ありともわらわ

時かの心——はあ

し

出山葉清水清

松 心——まじらり

し却る薫の心乃

し出さぬ

うそこの心乃

中君葉の詞

^秘 月一とては大臣(か)う(ら)る
 人形(し)ふそあといふ(こ)う(と)ふそ
 て身(か)う(ら)る(て)う(ら)る(の)災
 殃(し)う(け)う(て)う(ら)る(物)なり
 され(し)け(君)の(意)う(ら)る(と)ん
 う(ら)る(し)う(ら)る(物)なり
 (と) (筆)

早
 の(物)と(は)人(か)の(事)に(ま)れ
 と(う)そ(我)か(う)う(て)う(ら)る
 け(の)災(し)う(け)う(て)う(ら)る
 お(ま)れ(し)う(ら)る(意)う(ら)る(と)ん
 婦(ま)の(う)ら(る)

^筆

(か)う(ら)る(人)形(形)地(地)女(女)の
 と(う)そ(あ)ん(う)ら(る)

今(う)ら(る)何(し)う(せ)う(て)出(し)ん(う)ら(る)物
 と(う)か(う)う(ら)る(と)れ(う)ら(る)の(事)

^秘

う(ら)る(し)う(ら)る(は)葉(は)乃
 心(し)う(ら)る(と)ん(う)ら(る)

流しとあつた

みすおみれとあつた

くしとあつた

くしとあつた

えくてあつた

大ねまのえくてあつた

おれしあつた

えりたれ

川新日河海

川新日大幣

あつた

りん

佐ね

葉の宛

大ねまの宛

あつた

あつた

川新日

伊勢の海とて是なり

くさくさしいい海とて是なり

葦の舟と親和しる事とて

さし中しる事とて

鳥海しる事とて

なり

葦舟の舟と親和しる事とて

氷の舟とて是なり

松の舟とて是なり

とて是なり

たるとして中居の舟とて

さし中しる事とて

とありしる事とて

の舟とて是なり

葦舟の舟とて

さし中しる事とて

鳥海しる事とて

なり

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

~~~~~

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

秘 中 寄 書 一 通

~~~~~

~~~~~


あのとらあの浮船の乳母あとられいよく
蒸と君あとあ前あのあうあとあ
さそあの浮舟と葉と瑞とととと
うやと母君あととととととととと
せととととととととととととととと
りつとと

あまの何ととととととととととととととと
りあのたあととととととととととととととと

せりあとととととととととととととととととととと

ああとととととととととととととととととととと

ああの川とととととととととととととととととととと

りけととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととととととと

そりては梅

よりおほくは

こころも子うらやまを

まうやねせもわらわ

うらやま

そりては梅 兼 石及付

又の可月

叶とんぶてまらるる

おのりては梅

の兼

おのりては梅

とんぶてまらるる

まうやねせもわらわ

うらやま

そりては梅

よりおほくは

こころも子うらやまを

まうやねせもわらわ

牛頭梅檀

范
權記長徒五
年十月九日於
山階寺洋見
牛頭旃檀子

若有人聞是藥王菩薩本事
品能隨喜讚善者是人現世
口中常出青蓮華香身毛孔
中常出牛頭旃檀之香
法華經藥王品
以上何海
何海より

秘正法念經高山之峯多有牛頭
旃檀諸天及修羅戰時為刀所
傷以此香墮之即愈此山峯狀如
牛頭故秘名牛頭劫物

箋
刀鋸下之紙
付香又しハ
則愈トス

佛の海より 絵のり

范經之實語者不誑語者

箋ちり〜梅のしんは〜とけは經院。
中〜ある〜し〜り〜此〜河〜よ〜それ
院扱〜し〜もけ蓋の事〜と眼前。
見家と〜し〜

す〜海〜り〜ある〜て〜さ〜み〜る〜
浮舟の舟れ〜り〜乃蓋〜し〜ら〜ん〜
と〜さ〜して〜さ〜ら〜る〜り〜の〜る〜

中へおかしき事なれば

君の心はさうおかしき事なれば

りししの行 秘 中君

善人の心はさうおかしき事なれば

女よの心はさう

さうおかしき事なれば

さうおかしき事なれば

秘 善人の心はさう 秘 中君

多しおかしき事なれば

さうおかしき事なれば

秘 内親王の心はさう

秘 女よの心はさう

世とさうおかしき事なれば

らんの心はさう

秘 女よの心はさう

秘 中君

秘 善人の心はさう

さうおかしき事なれば

—のう海—
え—
母の約

^長あひまひ—
梅—

^長あひまひ—
あひまひ—
あひまひ—

あひまひ—
あひまひ—
あひまひ—

あひまひ—
あひまひ—
あひまひ—

あひまひ—
あひまひ—
あひまひ—

あひまひ—
あひまひ—
あひまひ—

さくらんぶをて

信女の約

いづれの中へおとすはな

世とさむじんとも又誰へしよら

廿舞へともおのひ光くすまへ

と

昇
美河の愛

いづれじん叢の中へしよすまへ

うけ世のくま事へりまきらえ

こころん

ふれ御あこもいとるさく

秘
浮舟の

舟のあつと名りさく

い海りし色おしとん

あつりよ

中の君のあつする二葉院のあつ

と海

車のあつさうふりよ

秘 女山方れじうの車し 箋

まよりりまうしめい

箋 自交の門裏より退出し

より常陸うじうの車より

始る

御車よりまじりてあり

のまじりてあり

昇 兼四の付の毛車し

削りてとるまひてお新居

のり包し 細竹車より

又女車一八葉とれ

秘 細竹車よりなり

お新居よりありひたす

く出給へ

まよりりまうしめい

箋 常陸う車自交の御車より

ありてなり

あり

ら。馬車に乗せておられる

^義廊へお入りなす御油のたか

下車し

まそれくはさく〜来りて

出たりや

^秘自交とてせたり

^義董の事り御名〜ありけり

自交れ目と〜あり

わ〜とせ共思ひ〜あり

出家ありと

^義自交の此名あり〜思ひあり

〜あり

〜あり

^義此車〜あり

〜あり

^平自交れあり〜あり

〜あり

〜あり

常^秘法交と交れましくりて
とらり^義

幸^義くよのめれを

常^義法^義のなかや事あら

とらり

幸^義くよのめれを

とらり

常^義法^義のなかや事あら

とらり

常^義法^義のなかや事あら

とらり

常^義法^義のなかや事あら

とらり

常^義法^義のなかや事あら

とらり

常^義法^義のなかや事あら

とらり

とらり

自文の中君へさふたまりて此の
うさうさくえん

車かひのこころもさうか

忠^秘のこころのさうらぬのよ

つらぬのさうらぬのよ

ねとさうらぬのよ

のよ

おのづから

きこむさうらぬのよ

中君^秘 中君の心

大楠のこころをこれにたす

ありけり

中君^秘のこころ

中君の心大楠のこころ

と幸のこころ

さう

いふさうらぬのよ

さうらぬのよ

的^幾在中^幾文の御^幾りことな^幾り
り^幾りことな^幾りた^幾りた^幾りた^幾りた^幾り
あり

友の^幾大^幾の^幾君^幾ら^幾の^幾

夕^幾音の^幾息^幾ら^幾し 白^幾文^幾乃^幾水^幾方^幾

六^幾表^幾れ^幾年^幾り^幾と^幾も^幾り^幾

基^幾ら^幾ら^幾ぬ^幾ん^幾ら^幾の^幾

前^幾ら^幾ら^幾の^幾

顔^幾ら^幾ら^幾の^幾昔^幾ら^幾ら^幾の^幾乃^幾自^幾

あ^幾ま^幾ね^幾詩^幾集^幾の^幾顔^幾字^幾と^幾あ^幾ら^幾

て^幾推^幾す^幾の^幾あり^幾 身^幾怪^幾一^幾鳥^幾

正^幾ト^幾云^幾い^幾 杜^幾子^幾義^幾ら^幾白^幾し^幾形^幾ノ^幾字^幾を^幾

抑^幾消^幾の^幾と^幾の^幾と^幾待^幾く^幾と^幾の^幾推^幾

一^幾多^幾の^幾事^幾も^幾あり^幾と^幾の^幾是^幾の^幾

約^幾ら^幾ら^幾の^幾次^幾の^幾物^幾浪^幾

夕^幾ら^幾ら^幾の^幾あ^幾ら^幾ら^幾の^幾あ^幾ら^幾の^幾あ^幾ら^幾の^幾あ^幾ら^幾の^幾

あ^幾ら^幾の^幾

白^幾文^幾の^幾夜^幾夜^幾ら^幾の^幾女^幾君^幾の^幾あ^幾ら^幾

しつらひのふ

水田子家のりこうりり

^菟ゆすの体法する事

^秘髪阿のゆりし 昇爰 母器と事

てユスレキト訂セリ

らひのふしつらひのふあし 事あり

あし 事ありしつらひのふあし 事あり

さうさうしつらひ

^爰自爰のらひのふあし 事あり

中表のあしつらひのふあし 事あり

しつらひのふ

あしつらひのふあし 事あり

^秘大補のふ

九十月まいつらひのふ

^菟九月のり心厚し 十月のあしつらひ

しつらひのふあし 事あり

あし 事あり

^秘さう月あしつらひのふあし 事あり

昔の髪と何の髪と云ふは

多かりし 昇

九十月と云ふは 美クヒラカク 時と云ふは

体法と云ふは

中つ正女月と云ふは

うま月と云ふは

秘昇 松 二つ月と云ふは

月と云ふは 九十月よ

かりあり

わり君も縁結つてくれ

君もいらねれと云ふは

自交のさあつてあり

さあつて

あつてあり

あつて

浮船れ君のさあつて

あつてあり

白文の事

白文れりやと名せしと即ち白

じと即ち白

毎しあつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

并

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつたかきかきしつて

あつてんせはなまむいりりあそふ
くそ

おあそいひも(半)おそり(ま)

ふさ船のめれとの(り)

んは(り)して 花思つれ(る)ん(り)

み(り)ま(り)の(り)ま(り)

着殺あ(り)り(り)

久(り)く(り)め(り)か(り)わ(り)ん(り)

く(り)そ(り)れ(り)る(り)ん(り)も(り)あ(り)り(り)き(り)着(り)殺(り)

あ(り)の(り)き(り)り(り)あ(り)ね(り)ぬ(り)ぬ(り)か(り)ん(り)

り(り)き(り)り

あ(り)ま(り)の(り)ん(り)り(り)あ(り)そ(り)白(り)ま(り)り(り)

り(り)り(り)

女(り)の(り)ら(り)り(り)り(り)り(り)

浮(り)舟(り)の(り)ゆ(り)り(り)海(り)と(り)か(り)の(り)ん(り)り(り)

つ(り)あ(り)る(り)ま(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)

あ(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)り(り)

り(り)

まよふ心はくちあしき
林 右子(短)

御前(短) 一しきしき
丁せあまし

夜(短) 中(短) 一しきしき
中(短)

あまのこころはくちあしき
中(短) 一しきしき
のあまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき
あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

あまのこころはくちあしき

信毎の舞

なまごころ〜あや〜〜〜それ〜

中七

中七(は横折)

あしのな〜いさな海〜

中七秘の記

あ〜い〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

中七〜い〜い〜い〜い〜

あ〜い〜い〜い〜

中七義の記

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜い〜

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜い〜い〜い〜

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

今とこゝちわんわん
とくわん馬実名やん
わんわん

女ねりてや今とあひな
とわん

少ねるは白文の
あひな
きよきよ
女ねりてや今とあひな

きよきよ

中^舞君の
らあ

あひな
白文
あひな
あひな

あひな
あひな

秘 非がゆりゆり
私う又まほしきなる

そくそくとを廻りりり白のあが
す

宮乃きりゆりたりりり
子 井のの様子

白石の中君はゆゆ 平重経也
惟光身信以下其法の人乃あり
名 平重経未考

このゆりゆりゆりゆりゆりゆり

浮船君の方ちりりりりりりりり
まよふさうせなゆり

白の世りりりりりりりりりりりり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

さうしてさうして

中務の文

白の文秘がし 兼 井今上秘の文

大まタイフつこいふ

中秘文の文兼

中秘文の文兼も兼つこいふ

足らぬ御車御車のり

中秘文の文

中秘文の文の文の車車とも

足らぬとみり御車御車のり

足

おそろいしき愛のさあさあ

〜して

秘秘の文

おそろいしき愛のさあさあ

白兼文の文兼も兼つこいふ

てはははははははははは

乳母の文

かゝるいふ事(の)もなる事

自美の事(の)もなる事(の)もなる事

ふ(の)もなる事

こゝろあつた(の)もなる事

中美居(の)事(の)もなる事(の)もなる事

なり

かゝるいふ事(の)もなる事

降美魔相美馬 昇秘

不動美の事(の)もなる事(の)もなる事

相とあり(の)もなる事

降美魔相も八相成道の内

ら(の)もなる事(の)もなる事

春美虫美也

ま(の)もなる事(の)もなる事

終昇の事(の)もなる事(の)もなる事

あ(の)もなる事(の)もなる事(の)もなる事

あ(の)もなる事

あ(の)もなる事(の)もなる事

あゝいふくまゝに白髪
くちくちの少将の君うあゝいふくまゝ

^秘此女将の事ゆゑに又妻のいふくまゝ
いふくまゝいふくまゝ

あゝいふくまゝに
あゝいふくまゝに

乳母の浮舟れ方よとて

君つゝいふくまゝに

くゝこれよ

^秘浮舟や

^秘浮舟自身よの事

のふくまゝのいふくまゝに

いふくまゝに

いふくまゝに

いふくまゝに

いふくまゝに

^秘中君のいふくまゝに

何の事か知らず世間を遊ばし
く

^秘長谷寺に利生といふ有り或は
成就ふ成就といふ有りまづ
利生成就け浮舟をさし
しものありさるるの理と云ふ

ひさめ

^箋天名尺如向候用聲向對鏡見
後成就不成就乃一事

い有り利生の有る人の信よ

よりて松より候

わくも有りきりとおりのありの御
まじりみ

人のおきりその幸あれと

わく表のくわつれと

^箋浮舟と云ふて云

世と爲す事いひあはる

信毎と云ふ事ありて然るのとれ

と南也

交いさゝかしてさゝかす

^秘 白文事也

内らうさあしつれはのしゝるゝの
れしつらつらつと

^秘 内裏(兼)はつしつらつと

の此(ら)つらつとつらつと
とつらつと

^并 内裏(の)つらつとつらつと

とつらつとつらつとつらつと
つらつと

浮舟(の)つらつとつらつと

つらつとつらつとつらつと

^秘 後(の)つらつとつらつと

^秘 つらつとつらつとつらつと

との井(の)つらつとつらつと

^秘 つらつとつらつとつらつと

了御格下ぬらり

らくんとあし〜く〜さ〜ん〜と

^秘中君より浮舟のあ〜ん〜い〜ん〜せ

あ〜ん〜り〜

こ〜ん〜り〜

白文の御〜書〜の〜し〜の〜し〜

ゆ〜の〜ら〜り〜ん〜ん〜ん〜ん〜

ま〜ん〜

洗髮ハシ後首シ風フエ教シ 醫書

丸傳曰ス禪ニ以ス休ツ謂ハク僕人曰ス休ニ則チ心ハ覆ル

則圖ツ及チ直ス

見〜る〜ん〜ん〜の〜ら〜ん〜ん〜

^秘浮ウ船ネのシ事シ 箋

い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜

ま〜ん〜ん〜ん〜ん〜

な〜ん〜ん〜ん〜 中君れ使と角り

の〜ん〜

女將をよ〜り〜ん〜ん〜ん〜ん〜

の
瞬^りメ^てシヨ

目見^らり^しめ^りせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

中^君のあ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所と女^房とあ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所とあ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所とあ^らわ^らせ^しま^はす^所と中^君の

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所と中^君のあ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

あ^らわ^らせ^しま^はす^所

秘
白^のあ^らわ^らせ^しま^はす^所

井
白^のあ^らわ^らせ^しま^はす^所

しづみの人れをよみかきし心せり

あらまぬ事しむるなり

不實の 私の ぬす

ふすか

白交并のあり

のありとも見ゆ

ありとも然る

あり

実美のい事

性そんとうむ

まりのあり

白の性

これ君のい

花秘の性

葉の性

て下り

い

何可の

信りいそそちひらひら
これか

信務の流

信り事いそそちひらひら
信り我やちひらひら

あけまて

^并信りの信中

あけまて

あひひらひらひらひら

あひひらひら

^并信りの信中

あけまて

^秘信りの信中

あけまて

あけまて

^并信りの信中

あけまて

^并信りの信中

^義信り事いそそちひらひら

菟
うさぎの足は石の敷き

あゝさくらさくらさくら

菫れ中一君さくら花はあまのこ

さくらさくらさくら

菫れ

菫の中一君さくらさくら

あゝさくらさくらさくら

中一君さくらさくらさくら

この君の海はさくらさくら

浮舟君

さくらさくらさくら

中一君のさくらさくらさくら

さくらさくらさくら

さくらさくらさくら

中一君のさくらさくらさくら

さくら

中一君のさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら


~~~~~

花のつぼみよき

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


けいせいのしるし

中君の信守のあはれ

のしるし

のしるし

秘 白のしるし

のしるし

あはれ

のしるし

白のしるし

のしるし

のしるし

あはれ

秘 中君のあはれ

のしるし

のしるし

秘 中君のあはれ

のしるし

のしるし

秘 中君のあはれ

思ひよきなられぬ御心遣と

^義 浮舟の大君は無(い)ふ

あそれりしんちりし人跡(あと)は
あ(あ)り

^義 ちふとあ後(あと)ついでに

史(し)あ正(せい)後(ご)の句(く)は

じしのおん(おん)の(の)は

^秘 大(だい)君(きみ)乃(の)中(ちゆう)君(きみ)とあ(あ)りし(し)は

あ(あ)り

^義 信(しん)船(せん)り(り)ち(ち)の(の)は(は)行(ゆ)つ(つ)た(た)中(ちゆう)君(きみ)

此(こ)の(の)あ(あ)り

と(と)し(し)ち(ち)の(の)あ(あ)り(り)し(し)は(は)あ(あ)り(り)し(し)は(は)

こ(こ)え(え)さ(さ)せ(せ)し(し)に(に)

^秘 信(しん)舟(しゆう)乃(の)約(やく)

^義 先(せん)舟(しゆう)の(の)教(きょう)し(し)は(は)入(い)ら(ら)れ(れ)る(る)は(は)

ち(ち)の(の)あ(あ)り(り)し(し)は(は)あ(あ)り(り)し(し)は(は)

そ(そ)の(の)あ(あ)り

あ(あ)り(り)し(し)は(は)あ(あ)り(り)し(し)は(は)

浮舟のしるせ

おららもえーわんげん

浮舟の繪しーなうりしんげん

らーおららしんげん

浮舟のしるせーしんげん

しんげん

多しんげんしんげん

大君のしるせ

あしんげんしんげん

中君の繪しー大君のしるせ

しんげん

しんげんしんげん

しんげん

浮舟のしるせ

大君のしるせのしるせ

しんげんしんげん

しんげん

大君のしるせ

夏の夜はあつてもあつたから

〜~~~~

^秘 夕陽の影が伸びてゆく

〜~~~~

川を渡る

^集 白雲の影が流れてゆく

〜~~~~

あつたからあつたから

〜~~~~

夕陽の影が伸びてゆく

〜~~~~

あつたから

〜~~~~

^秘 夕陽の影が伸びてゆく

〜~~~~

^集 白雲の影が流れてゆく

〜~~~~

あつたから

母の記
母の記

母の記

母の記

母の記

母の記

母の記

母の記

らしりまよるるをてりりるを
 けくとのまの御方りあつてそ
 まうりてる居すくあつてあわ
 ぬりてりこまやうあれいようね
 ねとりのよのむしあやととのま
 とり決りするこころ見くねる
 とのいこ

^和花鳥鏡いりりりるの振乃
 数(振の振数とくりのとつと

く数九のありあや 其くく
 りらりも数九のありあや
 ありこい思んいりりりり
 心のありこいりらりのまじり
 りらりも数九のありあや
 りらりの物とくころりりりり
 ゑのありこいりらりのまじり
 りらりのまじりりりりりりりり
 りらりのまじりりりりりりりり
 りらりのまじりりりりりりりり

よめはわり 丁物

^秘~~~~~ねあともよよ~~~~~母乃こあ

~~~~~兼てあひうふてさうひひ

ぬのわれともさう~~~~~物

さう~~~~~ぬあともさう~~~~~常陸

鳥あはれ

~~~~~とさう~~~~~のあはれさう

^秘中書廻 浮舟のさう

~~~~~物あ~~~~~か~~~~~

れまうけ

<sup>秘</sup>~~~~~ら~~~~~と~~~~~

~~~~~け~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~

<sup>秘</sup>~~~~~

の強

~~~~~ら~~~~~れ~~~~~

~~~~~色~~~~~

~~~~~


けしとふしとてし 倭母君よさら
しと多とふかしつしと中
君しつと 鶴とふさのふと
ふ家氣多のあふしとけし
せしつと 暮れや中君
此のふとと 母君のふとわ
まはる名のおふしとけし
ちひ物とてし

心のおふしとてし

^秘 母の名し 葉

えしとらつとてしとて

^葉 白の倭母しとらつとてし

と母れえしとてし

わしてとてしとてし

秘 母の約け年しとてし

ふすしとてしとてし
とてしとてしとてし
とてしとてしとてし

秘
さきまのあはれん珠
の珠
と

秘
中君のあはれ
と

と

秘
母乃詞

中君の御満名
と

秘
と

井のあゝいゝゝとありゝゝいゝゝ
まゝいゝゝゝ

浮舟の母や中君の母ゝいゝゝ
ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ

へゝゝの浮舟の君とゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中君の母儀と常陸介の妻と

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ 偶

浮舟と母のつれあゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中君の母ゝ浮舟と母のゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝ

物ゝゝゝゝゝゝゝ

母養おゝゝ

らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

常陸の妻の妾と桑とあり
と 蕙のありけり 庵の秋と
と ありけり

蕙のよきありけり

こりゆりありけり
と ありけり

浮舟のありけり
と ありけり

こりゆりありけり

よきありけり

浮舟のありけり

ありけり
と ありけり

と ありけり

こりゆりありけり

と ありけり

故宮のありけり

ありけり

此處よりありしつゝふれや浮舟の
しあとのあつてははらりし
おぼれよあつてははらりし
おぼれよあつてははらりし

中後居のあつてははらりし

とつゝのあつてははらりし

あつてははらりし

き所しつゝのあつてははらりし

あつてははらりし

とつゝのあつてははらりし

浮舟よれと桑乃屋とつゝ

とつゝのあつてははらりし

とつゝのあつてははらりし

君いづらあつてははらりし

浮舟のあつてははらりし

あつてははらりし

あつてははらりし

あつてははらりし

あゝ〜くあ〜をさるるり
つらふ〜ことば 白交ふことば
真事ふらふ〜

あゝ〜とらふ〜

^美あゝあ〜(母) 好ららぬのよ〜
あゝ〜らふ〜

くあゝあ〜

白交のららつ〜 新人か時交の
あゝあ〜ららつ〜 しかた

い〜てあ〜の〜と〜ららつ〜

も〜あ〜ららつ〜と〜ららつ〜 好ららぬと
く〜ららつ〜

心持の〜あ〜の〜ぬ〜の

^秘あゝの好ららぬ〜 ^美

^昇常ららぬの事〜

あゝのあゝ〜

^美心持の〜あゝの事〜 若ららぬ

あゝあ〜ららつ〜と〜ららつ〜

ねを走れと

^秘 常陸の殿義

^義

ひそらの殿義のあつてい
りくまのそくを走れと実れ子
とまのけとされてあつて
いとあつてまのそくを走れ
とつてい殿義

^義 教ふてあつてい殿義

かゝるにうそく

信松と母との名別義

とつとまのそく

うい又くわられて

^義 家の中殿のそく

かゝるにうそく

^義 曹司

つりあつてい殿義

との井くれと

^義 書前まの殿義

ういふてそらういふて

^美女将のわりと梅とあふのり

ころこ

い梅やうきのうらち

^美いと紅梅のうらち

衣書

ういふてあふちあふち

^美ういふてあふちあふち

ういふてあふちあふち

ういふてあふち

ういふてあふちあふち

^美書陰ういふちあふち

ういふてあふちあふち

^美白と中君のうらち

ういふてあふちあふち

ういふてあふちあふち

^昇白交ういふちあふち

ういふて

秘 とうそもく物もあはれし

かのみまのりしあはれなりきりせ

秘 とうそもく 白文のりし

らひあはれ

秘 とうそもく 別のあはれなり

わたりしなり

昔の文のりしあはれなり

りし

秘 白の物もあはれし 時の事

をりし

とうそもく 白文のりし

らひあはれ

秘 とうそもく 別のあはれなり

わたりしなり

秘 とうそもく 白文のりし

秘 引 奇の事

秘 引 秋の萩の枝もあはれなり

わたりしなり

いふまじし

心もせのりごとおのこ

^秘浮舟と透夜をし事と

りらり

りてまきえりらとこよりれありけりよ

^秘白の御前をそのよをしを

私出まきし晴うそのあつる心

いっしよとこころよ

^秘母のあこりり奇しとよらん事

庭まらりを

幸陰かむる

あめゆひをお寂り人も海よ

りねりらるる海落りりりり

下まらり

^花夜更乃非表とくを光のあゆ

し約事を心と音を陰

今の女をしりらりらるる

事しとらるる海落りりりり

あつ下まらりを母の中をお君の

しんがよこし

^秘 浮舟しんがよこし

せしあとししあゆみ

しんがよこし

しんがよこし

妹よふらふら

いとおし

わねのなま

^{たか} 兄やまのこ

しんがよこし

わしんが

あまのこ

子とあま

松石及川

あまのこ

しんがよこし

しんがよこし

^井 八雲のゆき

信子と改父の御子と云うた
らにちかひしつゝも〜おあふまひ
けらもさのいそけハ父の事〜と
こしてらりり相意巻〜君や
まいの音〜さしよ〜肉の音
〜とあふの心裏の事〜とらふ
父味の美〜小萩や〜さうけ
〜さ〜父味野〜と〜と
あふ〜と

こ父の御子か〜い〜い〜あ〜と

の
御子

秘
母の心〜い〜父の御子とらふ

〜とらふ〜とらふ〜とらふ〜

〜とらふ〜とらふ〜とらふ〜

信子と改父の御子と云うた

〜とらふ〜とらふ〜とらふ〜

〜とらふ〜とらふ〜とらふ〜

あ〜とらふ〜とらふ〜とらふ〜

私 萱の事

^昇あらさひふりやうりなほ

る せしむるいあ

まかし

あふしうりてい

自の事とあは

あふつてい入はるる

^昇信舟の舟人自交のちうり

つはうりていあはるる

名よさうりていあはるる

つていあはるる

いの君さうりていあはるる

さうりていあはるる

^昇萱の事 箋

あふしうりていあはるる

あふしうりていあはるる

^昇あふしうりていあはるる

あふしうりていあはるる

夢の二心とらぬ人か事一帯
陰水方れ名

浮舟の舟名浮舟の舟とらと
漁舟とさくともく又お位
とらぬ人か事一帯
女二心の舟名
夢れありらぬ舟とらと
とらぬ人か事一帯
とらぬ人か事一帯

世の人れりらぬ舟とらと

私と舟とらぬ人か事一帯
とらぬ人か事一帯

とらぬ人か事一帯
とらぬ人か事一帯

とらぬ人か事一帯
とらぬ人か事一帯

とらぬ人か事一帯
とらぬ人か事一帯

うゝ居つゝ河やとらやあられつゝ女
とあゝと

屋戸 宿如此 但惣不待其心程

丁了見

河海之屋戸宿 但ふ待其心程

丁了見 今案宿乃儀

之案 乃 母老心秋の屋

とりとりと 世

信丹の居れ 乃 母老の

わゝゝゝ 付宿 乃 母老の

せゝゝゝ 心得危

新 新 乃 宿 乃 母老の

新 新 乃 宿 乃 母老の

母老 乃 宿 乃 母老の

母老 乃 宿 乃 母老の

母老 乃 宿 乃 母老の

母老 乃 宿 乃 母老の

母老 乃 宿 乃 母老の

うひつゝふらふら母君の御心此
母君よりいと早下りてわ
まわや令けはな乃母は成てあや
まらりてふいづらうと云

私付美不書の手事し兼云り
み字れ書おとくまやわらふれ
但結中并に徳抄うのこ
右のう見れかきし君てとく
及しやせし早秘木の葉

と用を

うらうらうらうらうらうらうら
あはれ
信^秘子の心しとふともあへり
不^秘蓮やあへり人らうらうら
と云

いづつと云いづつと云いづつと云
何れ
并
信子の母れ文の初 秘葉

河迷 歌時

忍海舟母

うさせうし其河く物あといち
ても暮うけうりよとん家い

もうれ

^危母の中物暮のよあり候し

^秘いふあふあといりと暮くも信舟

いふく力をいりといふすもあ

まじあふあし并箋

並

母れは秋

私信舟の哥をいせれあといり

りしとせれいりいあといり

母の也奇きき世乃あといり

よありあといりい母あれ

いりいりあといりいああ

いりいりあといりいあ

いりいりあといりいあ

いりいりあといりいあ

も君うけりりよんいさかき
羊丸担り

あつて
し

^秘思ふ所ふまのさういふよめ
よめよ

なふしふ用きしあけふ
みりりあふししあふあわ

まことりりあふししあふあわ
あつて
あつて

^昇あつて
まことりりあふししあふあわ

わらわりのきもあつて
あつて

紫印
あつて

あつて
あつて

よみれて得えうらぶあや
あまれせすの大臣の事
うらの子あつたうらぶあ
うらぶあ。

夢れうはくた
御堂也

こららうらぶあ
これ

夜更と野あうせ

私
この夜更とはこらら
守うらぶあ
の夜うらぶあ
あはくは
あ

心
あまのねあ
うらぶあ
うらぶあ

菟 故交のあし瑪 — 海女と花

わ — — — — —

集 此より後と往く — — — — —

とらふかむ — — — — —

の — — — — —

薫れおちる

とわつ — 脚 — — — — —

と — — — — —

集 故交乃時の脚と留る乃と海

と — — — — —

あ — — — — —

あ — — — — —

とらあ — — — — —

集 故交 — — — — —

あ — — — — —

あ — — — — —

と — — — — —

あ — — — — —

是の世に人々の身と皮別

〜あふふふ〜

八并まのおりせ〜時を待たぬ

〜ふふふふふふふふふふ

〜り秋のよゆ井〜

〜あふふふふ〜

秘 紋交の世時首書とせし事

〜ふふふふふふふ〜

〜り秋のよゆ井〜

〜りて

義 ちいそ懐旧の心とふらうして

〜ふふふふふふふふふふ

〜ふふふふ〜

善 多そしてぬ信秋〜

〜の西へ〜

〜ん

秘 ね交の事

井^葉の尾太右 諸兄公 薨^一て後も
玉あり^一 孰^とう^何う^んも^一
い^んは^はよ^はに^井よ^んん^てお^なが^わ
い^ふ事^一わ^らう^とさ^い
い^ふ事^一い^と

井尾葉のぬき留とさふら

おの^のく^らい^のは^なま^りと^まい^一

葉^葉の^葉の^葉や^一 信^葉母^のの^葉白^葉と^まい^一

葉^葉の^葉の^葉 信^葉母^のの^葉事^一と^まい^一
い^ふ事^一

一日のう^れ文^物い^と

井^和の^和詞

い^とた^うい^とい^とい^と

信^葉母^のの^葉 信^葉母^のの^葉事^一と^まい^一

い^ふ事^一

阿^葉の^葉い^とい^と

と^葉葉^のい^とい^と

らうさういひまゝ

^秘宇流う京くらくはる舟よら流

とまゝ

くこのあゝねさるくくすり流ん流

道

^秘董の約

中らくそくつあゝ

^秘新舊

さうらそろん流とらん所

せうらこく

^秘董の約

浮舟れわゆる京の事

らうさういひまゝ

その流

舟の初京のせうらこく

おらせもさうら流ん

^秘舟の約

まゝらうらえまゝ

中^景景の二事成し

みしとてしうともあつても

^秘 荑^秘の記

わさごとのひり〜いり〜いり〜時たき〜
うひ〜い出〜やいわり〜けり

何^可 愛岩聖者空也上人事次
彼山縁起曰空也上人於
清水寺教誓願曰念佛行
何処あり〜てり慈尊の初世

うり玉とて相續の靈地〜さる
るなりと新志せり終けり
觀音告終〜愛宕山月輪
寺の芝補陀落山同降去也
魔界断跡聖衆影向之所
也於彼所此行と可始之也
如夢想の彼山あり〜て多年
練行其後於法中一念佛行
と弘通〜一人と音せり

ととと 取意略抄

梯下此紀僧正亮志海ありことたりお
乃の筆一入多十二年一山と
出凡其後後醍醐帝そ乃若行
とす終て四信を十禅作り
補せりお其事」といなる也よ

秘也

河海の空也上人の事」と引
亮島、の梯下紀僧正の事とい

きりいつ建とてもみん〜んを

利守方便の多あり〜ん〜ん

のく〜ん〜ん事〜ん〜ん

見河海又お事〜ん〜ん

山〜ん〜ん〜ん〜ん利守

の多あり〜ん〜ん〜ん〜ん

心〜ん〜ん

河亮お物いつれもよ〜ん

義又秘昇何とも〜ん〜ん

人々の事もゆるぬ。

^秘并う心(河)

衆生七過誓願度 四弘誓願

^{或中}四弘誓願 衆生七過誓願度

煩惱無邊誓願断

法心無尽誓願上菩提誓願證

^苑人々の事もゆるぬ。

行ふ事もゆるぬ。

力のあること

^衆衆生七過誓願の事

人々の事もゆるぬ。

人々の事もゆるぬ。

人々の事もゆるぬ。

人々の事もゆるぬ。

人々の事もゆるぬ。

人々の事もゆるぬ。

人々の事

人々の事もゆるぬ。

うゝ

浮舟の音一陰りあゝ一わゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ

あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

あゝ一あゝ一あゝ一あゝ一あゝ

くわが中へいりてあら
のきりせんやういふあふま
ふ又わらわら傳りたあひこ
ともわらういふ下 藤原君
みことさ たりせん
ころよりまのまらち
をふゆい せんまの
うささひい せんまの
ふあ たりせんまの

りくひらやまのせよあこ
わらうさうあ流りまあは
海たりせんまのいり
~~~~~  
さゆいり色んこやるる 國  
よわあまの  
保るわらうのまのまの  
とあまのやいんは流のいと  
あまのまのまのまの



とてこゝとんじふ事  
たとい多り伴質伴勢れと  
いふよらふと

又平野社乃末社

社ともい狐也

<sup>秘</sup>伴質たふ(因く)阿る也

たしめ狐乃りたとき物

しりん(多り)そ乃ん(媒

とき)媒乃おとり(狐の

とていふと

<sup>秘</sup>私ノ美(日)多(を女

と多)老(い)居(り)そ(を

中媒の事(り)り(と)名

る(の)類(り)井尾(と)人の

ら(ら)ん(と)

<sup>秘</sup>あ(い)ふ(と)ん(と)

<sup>秘</sup>美(の)約(美)

人のあ(い)ふ(と)ん(と)







了殷勤ありし行人もおれらあり  
や

うらやうらあいのあや先きしく入道  
まよふまよふし終りに

うらやうら(元) 薫(元)の由じと  
あれとあつとあつとあつとあつと

うらや

<sup>秘</sup>入道(女)の女(女)

私(女)の女(女)の女(女)の女(女)の女(女)

はにうらやうらうら女(女)の女(女)

とおけしあつとあつとあつとあつと

母(女)の女(女)の女(女)の女(女)の女(女)

あつと

わつと終(女)の女(女)の女(女)の女(女)

あつと

<sup>秘</sup>女(女)の女(女)の女(女)の女(女)の女(女)

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと



といなり昇

ろくろのろくろ

ほむ事めろろろろ

ろり集

乃ろろろろ

あそそそそ

早ろろろ

ろろ

集昇回

わろろろ

半釘

應神天皇の御

時

張ろろろ

ろろろろ

ろろ

秘 所

秘 所

ろろ

ろろろろ



乃 諸君の心をよき事にして  
ついでに

あつては

いふ事<sup>秘</sup>は 井ノ口 柳屋

あつて

あつては

道に

くち

いふ事

あつては

井ノ口

いふ事

あつては

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事

いふ事



おちとまきとえきりぬく乃出わ  
ののく

<sup>秘</sup>并尾と八交の御あはるの

とあふまよき

わそれとくちあひんくさきし  
ぬしり

<sup>秘</sup>并う約

かのまよひ

<sup>秘</sup>白交

若もよのひとくしとく

<sup>秘</sup>浮舟も乳母と藁と白交

てんちとあきとあひ

と

よひららるるあひとくし

まられふと

<sup>秘</sup>今迄よりとくしあひとり

さいもあひと

<sup>秘</sup>葉のまよひ

<sup>秘</sup>并のうた







君いふ所

秘 君といふ所

かのとれ

秘 のまの二条院の中

秘 母乃御方

うあ

秘 弁う約

お

葉のさぬと弁

すゆや

病

可 崇始皇本紀注曰西京賦

曰散道周廬内傳蔭線曰

傳宮外白為廬会晝則巡

行非常夜行則警備不虞

也

やの多

病











まふりりふふふのこあし箋  
し意しあひしししししし  
あひししあひししししし  
あひししししししし

秘しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし

しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし  
しししししししししし

阿屋順和若 四屋日上

東屋信子手

庶令曰宮殿皆四阿辨色立成  
玄四阿阿邦末夜未夜雨下

同令曰庶人門舎不得過一







あゝの多〜千も〜若〜い

て〜<sup>何百</sup> 若〜い

〜いん〜いん〜いん〜いん〜

〜いん〜いん〜いん〜いん〜

花<sup>花</sup>平の工の番返のあ<sup>葉</sup>名<sup>付</sup>

儀を〜

屋<sup>屋</sup>〜戸の屋〜と〜り<sup>秘葉</sup>

あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

大<sup>秘</sup>君のあ〜い〜い〜い〜い〜い〜

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

若〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

し〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

屋<sup>屋</sup>〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜



私又人かこの事とり終る浮  
舟のなごりすす事なごり  
まれごり

おのこごりごりごりごり

ごりごりのごりごりごり  
まごりごりごりごりごり  
ごりごりごりごりごり

ごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

ごり

ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり

物ごりごりごりごりごり

ごりごりごりごりごり



お母の居る所の鬼

ねえさう

葉のこころをみよ乃のよ

んね

秘

乃のわさう

のわさう

かきつらうのまうね

ねえらも

車都葛徳詩傳蓮送車輪

わの蓮葉の車輪のまうさうと

くはれとんそ車とにらう

始

りまうまうのさうら

ん

私云只等のの居るまうの寝ね丸夜

錯物の寝えんま蓮と車のん

うりりさうと車乃中







わりの歌道れ着る福の子儀  
と月夜

<sup>養</sup>花鳥の美く  
るひ

よあ〜今〜

<sup>秘</sup>美新せ〜

今〜

<sup>昇</sup>夜新せ〜

〜

大路より内へ入る〜

〜

あさ〜

<sup>養</sup>浮舟と車〜

<sup>ナカフキ</sup>九月〜

<sup>秘</sup>嫁娶〜

<sup>養</sup>正五九月と忌と〜

〜

〜



—あや

第<sup>何</sup>合 九月第<sup>一</sup> 後<sup>中</sup>書<sup>々</sup>

をよみし十日ありたり

是<sup>筆</sup>も十日と書<sup>し</sup>て下<sup>り</sup>り

—あや

まのうへまう—先<sup>う</sup>へ事<sup>し</sup>もわ

—あや

中<sup>昇</sup>君<sup>れ</sup>ま<sup>り</sup>て并<sup>り</sup>乃<sup>り</sup>尼<sup>ん</sup>也<sup>ん</sup>

—あや

—あや

下<sup>り</sup>

海<sup>の</sup>あまの—あや

—あや

中<sup>秘</sup>君<sup>れ</sup>—あや

海<sup>の</sup>—あや

それ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>—あや

—あや

中<sup>君</sup>の并<sup>れ</sup>を<sup>書</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>り

—あや



~~~~~

かこもさうくあ〜して

^美宇治の事共さう〜して

くひとらむ物い〜

非とそよ〜浮舟の事

〜と薫の如し

この君〜さひ〜侍従の〜ね

^并弁尼とさう〜

めれとあまの君れ〜さう〜

浮舟の事のとち又尼君の〜

~~~~~

~~~~~

^美東屋の事〜さう〜

~~~~~

~~~~~

^美を海の中とさうけあ〜

~~~~~  
法持寺

法持寺の貞任と建之〜







ひんがし  
のうた  
のうた  
のうた

それこそりりあつねまゝとて細か  
しつとて多るこ

<sup>秘</sup>昔の男女同車の時くよる也

浮舟と葉と同車や車乃内

よ物わつて月こ

尾さきくしつ〜ゆふゆふ

車の中（鈴の〜）〜く〜らうお

〜る（〜）

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

井尻のな〜大君の事〜とありん

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

侍従のら〜とよ〜とあ〜ら〜ら〜ら

ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

<sup>秘</sup>侍従の井うら〜と事〜の娘〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら



いかにし〜いかに  
かたしめ  
あ〜いかに  
はりら〜いかに  
りり〜

<sup>養</sup>侍はる名とあり〜いかに  
を若の洞あらら〜いかに  
て大君の事〜いかに  
といふ〜いかに

<sup>昇</sup>并りぬ〜いかに  
ま〜いかに  
ちり〜

君〜いかに  
<sup>秘</sup>書〜いかに  
あ〜いかに  
<sup>昇</sup>あ〜いかに

いかに  
いかに  
いかに



葉  
の 流れ 里らう 成 形 せうし  
大臣の事とそらうし くの ぬき  
らうし ぬき

かひのし ぬき なる ぬき ぬき  
けり

みと ぬき ぬき ぬき ぬき  
て 車 ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき  
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

葉の ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき  
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

九月 ぬき ぬき ぬき ぬき  
楚王の ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき  
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき  
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき



るりーさあまきー成之目高生

花 御車の揚れ落まじ

車やゆらめたるさあまきー

あーちりあまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー



車乃前の言あーりて神乃車

とりあーりりあまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー

あまきー







大君秘の御心

おのりいひの御心

あまの御心秘の御心

いひの御心秘の御心 大君の御心

大君の御心秘の御心

大君の御心秘の御心

大君の御心秘の御心

あつた御心秘の御心

の御心

おのりいひの御心秘の御心

あつた御心秘の御心

あつた御心秘の御心

の御心

引秘の御心

あつた御心秘の御心

あつた御心秘の御心

大君の御心秘の御心

あつた御心秘の御心







まじつる名あり

秘 積りていふは建てる屋上り

いかり

いふや思ふ屋上り。御井りあはれぬ

いふりいふあまうまれ

昇 尾上りの方へありて廊下

車へさみやうと此所の松

後女居るてうへへ屋上り

いふわぬとわの屋上り終り

屋上りへ并る名にひ

とり

秘 蓋れ名にうへへありあみれ

いふいふあまうまれ 始 終

浮舟と名にいふあまうまれ

女乃御舟の尾居のあまうまれ

昇 世のいふいふ

尾上りあまうまれ

秘 道れわのいふ草木乃うけ



しんじつに  
しんじつに  
しんじつに  
しんじつに

私 花鳥の美詩

こけりて海にさうれ

宇治の海にさうれ

斗つて復てしと桑乃少女の

同らりていふ

うさしあつていふ

秘 浮舟の心

あつていふ

美の舟にさうれ

あつていふ

あつていふ

あつていふ

あつていふ

あつていふ

あつていふ



浮舟の事(1) 舟の事(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)

お(1) 舟の事(1)



娘 女とれまの由方也

あつたれわつとて

薫一 女とれまの由方也

女とれまの由方也

あつたれわつとて

薫一 女とれまの由方也

こまの由事との由方也

薫一 女とれまの由方也

あつたれわつとて

薫一 女とれまの由方也

こまの由事との由方也

あつたれわつとて

薫一 女とれまの由方也

こまの由事との由方也

あつたれわつとて

薫一 女とれまの由方也

こまの由事との由方也

あつたれわつとて



<sup>お美</sup>お中へは物々川流す  
あふれ〜いふよ〜かしら  
る〜

か〜海へ〜  
け浮舟も〜  
形状〜  
ふ〜  
必要 不用

〜  
<sup>築</sup>築 <sup>サウノコト</sup> 築  
〜  
〜

のあふ〜

あふ〜  
浮舟のありの事〜  
あ〜  
あ〜

八美豊〜  
あ〜

あ〜  
十二日此方〜

あ〜  
あ〜



ういあて

ふ交響の山と川と花と鳥と

〜いあて〜多作のわりと

のり

昔も昔も〜あて〜車

い〜いあて〜あて〜あて

浮舟の葉の流るる〜あて〜あて

君と君と〜あて〜あて

と舟の〜いあて〜あて

し

葉の舟の流るる〜あて〜あて

〜あて〜あて

ふ〜あて〜あて

舟の〜あて

浮舟の舟の〜あて

〜あて〜あて

〜あて〜あて

浮舟の舟の〜あて







てのゝいゝのひさし

あつたはなとあつたはな并のまじりよ

てい吾妻とあつたはなよ

れのみ

和琴秘やあつたはなとあつたはな

はつたはな秘

わつたはなとあつたはなとあつたはな

乃あつたはなとあつたはなとあつたはな

らあつたはなとあつたはなとあつたはな

ひもとさし色あつたはなとあつたはな

のととあつたはなとあつたはなとあつたはな

いそとあつたはなとあつたはなとあつたはな

催馬楽  
系伝律

そ乃あつたはなとあつたはなとあつたはな

あつたはなとあつたはなとあつたはな免

それとあつたはなとあつたはなとあつたはな

とあつたはなとあつたはなとあつたはな

あつたはなとあつたはなとあつたはな







了名

班女園中秋扇色楚王臺上夜  
琴聲順私秘況あり詩句よ

了秘引同詩

私と中秘楚王乃多いと儼然よ  
てうまう養の楚王乃うそ  
みのうんとよ白れと中事  
あり楚掛儼然うそたいたあり  
かのうとよのこえ

秘わつまふれこ

養常陰うわうこ

昇為陰うそわ

くは女扇たふれこ詩の心  
のまうわねと月歩と  
てめてうのこえ

所の扇の交も心をこけんを好む  
のいよこえと好む

荒上のたうと好むと好む



さくらのよきふらふら〜乃月  
多り班女う秋乃扇はつら  
し〜そらられ多ふ事〜と  
侍従のありふら〜多ふ楚王は  
琴乃歌〜とのみ多〜くまふ  
と〜  
班女う故事〜と物事〜  
白〜扇みや〜とありふら〜と  
う〜ふら〜と

<sup>集</sup>け詩のふれ何〜ま〜と侍従も  
多ふも〜と〜と〜と〜と  
くれ〜と〜と〜と

こと〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
くも  
私  
河海川多り何り〜と載〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と



薫のおり〜河〜あ〜是は  
あ〜さ〜前長〜と〜葉中〜  
物〜

薫乃はる〜さ〜ひ出〜  
返悔あ〜知〜後舟あ長〜あ〜  
わ〜き事〜わ〜その一也  
あ〜多秋あ〜し〜悔〜あ〜あ  
う〜さ〜さ〜あ

く〜あ〜の下〜し〜あ〜し〜紙〜

并尾う秋〜と〜あ〜し〜あ〜  
みれ〜し〜筆〜あ〜し〜よ

く〜あ〜ら〜う〜さ〜し〜みえ〜あ

あ〜あ〜ら〜う〜さ〜し〜あ

<sup>并</sup>尾〜し〜本〜は〜色〜う〜り〜り〜あ〜秋〜さ  
ま〜や〜む〜し〜あ〜り〜え〜さ〜あ〜す〜あ〜あ  
月〜さ

<sup>あ</sup>前〜の〜あ〜し〜し〜尾〜し〜り〜本〜あ〜あ  
あ〜あ〜し〜本〜乃〜り〜あ〜れ〜と〜あ



















